

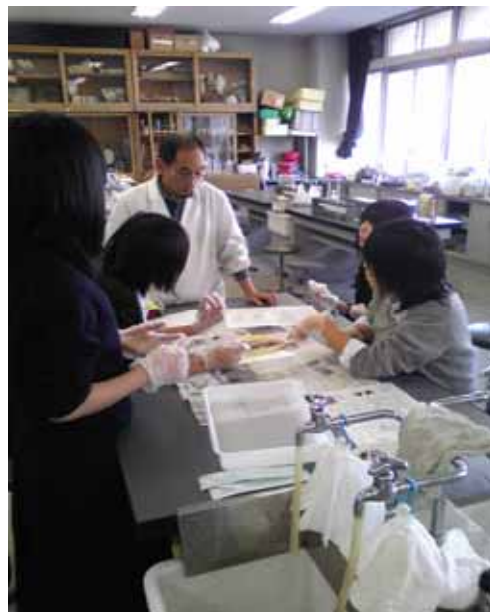
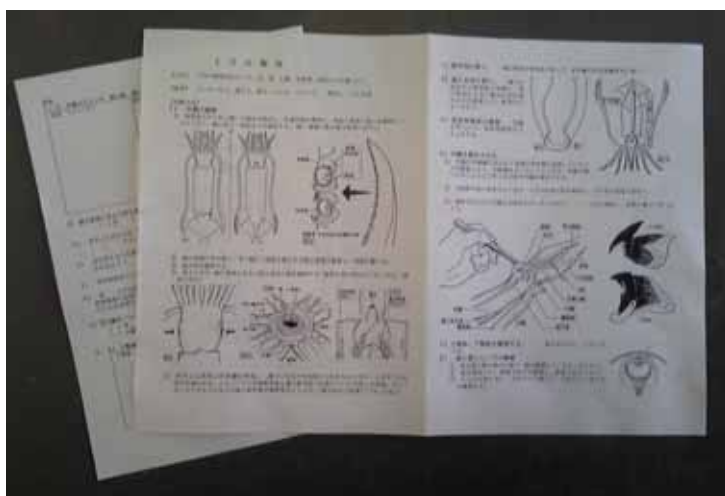
「イカの解剖」

理科：足立、三浦

3年選択科目「人間の科学」では、「身体を知る」というテーマをもとに、人体の構造と生理について、実験・実習を行いながら学習します。

今回、身近で入手しやすい「イカ」を使って、実際の動物に触れ、動物の形態についての理解をより深めるために解剖実習を行いました。

実習に入る前に、先生から実習のポイントや諸注意を聞き、プリントの内容に沿って進めていきます。



外観の観察



2本の触腕と8本の腕を観察し、腕の吸盤の形態や触感を確かめました。イカの吸盤にはザラザラした角質環がある。



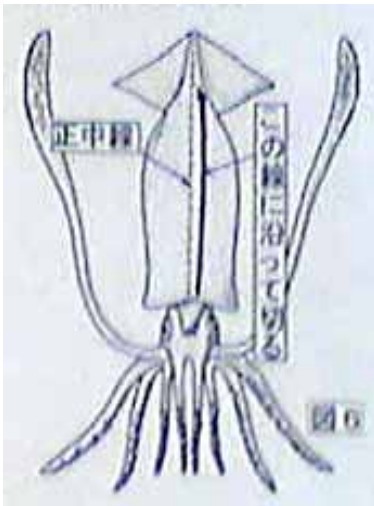
腕の基部にある口部

口部の中央に見える黒い部分は顎で、上顎板と下顎板からなり、俗称は「カラストンビ」という。

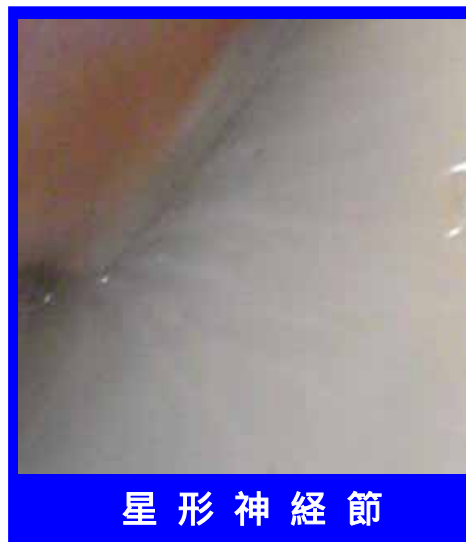
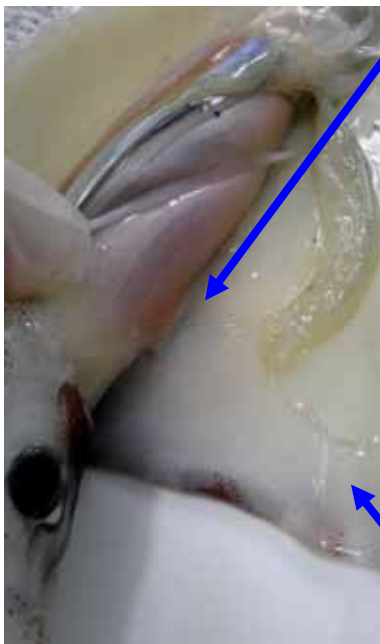


内臓の観察

胴を切り開く。



胴の腹側を解剖メスを使い、正中線のやや右側を切り開く。外套膜の内側にボタンと呼ばれる外套軟骨器が見られ、漏斗にボタン穴と呼ばれる漏斗軟骨器があり、はめたりはずしたり、取り外しが可能である。ボタンの近くに見られる放射状に広がった大きな神経節は、星形神経節である。

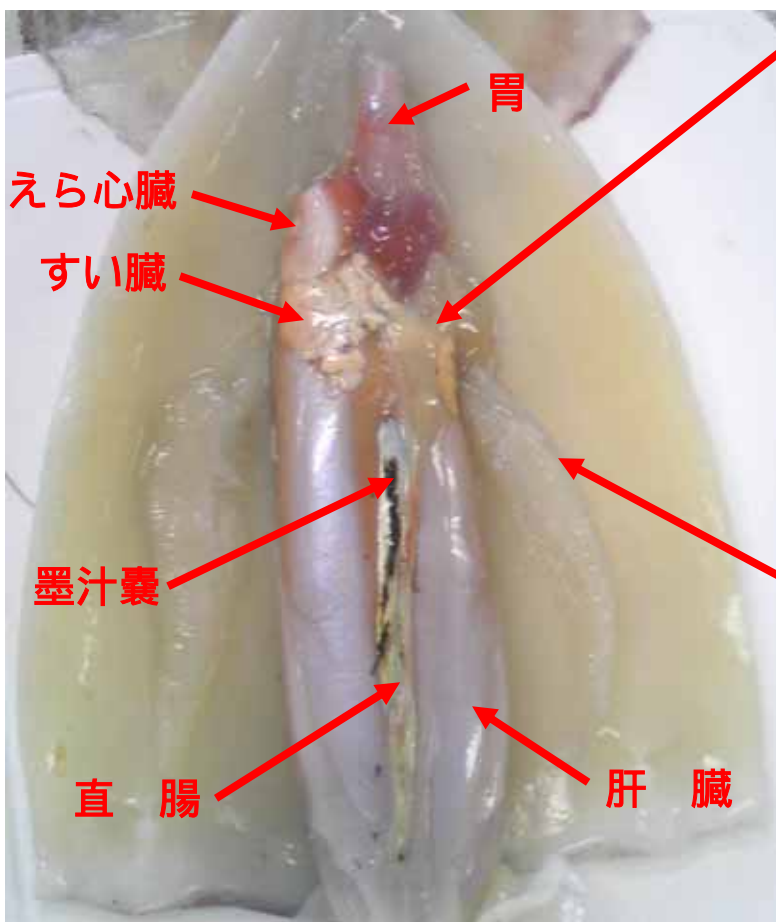


星形神経節



外套軟骨器
(ボタン)

内臓全体を観察し、一つ一つの臓器を確認する。



生殖器



イカは雌雄異体で、成長した大きなイカでないと性別は判別しにくい。雌には輸卵管 雄には輸精管が見られる。

えら

血管が見られ、その血しょうには青い色素（銅を含むヘモシアニン）が含まれる。

眼と脳の構造の観察

頭部を開け、眼球と脳を取り出し、観察する。

眼を解剖し、網膜の色（黒）を確認し、中にある水晶体（レンズ）を取り出す。

水晶体（レンズ）を文字の上に置き、文字がどう見えるか確認する。



次回の実習は、「鶏の解剖」の予定です。